

特定非営利活動法人 子ども健康フォーラム
滋賀県立小児保健医療センター
社会福祉法人中央共同募金会
マニユライフ生命保険株式会社

ー第四期子どもの療養環境改善のための特別支援プロジェクトー
「森の中の湖とお城」をテーマに、
長期入院の子どもたちや重症心身障がい児に楽しい療養環境を提供する
『マニユライフわくわくるーむ』が完成

滋賀県立小児保健医療センター内に 8 月 1 日よりオープン

滋賀県立小児保健医療センター（院長：藤井 達哉）では、NPO 法人「子ども健康フォーラム」（理事長：長嶋 正實）の支援協力のもと、療養中の小児患者を対象にした成長発達を促すための本格的な新プレイルーム『マニユライフわくわくるーむ』がこのほど完成し、8 月 1 日（月）より正式オープンの運びとなりました。当日は、当医療センター 病院長、看護部長、「子ども健康フォーラム」理事、マニユライフ生命保険代表など関係団体の代表者臨席のもと、贈呈式および内覧会が行なわれました。

『マニユライフわくわくるーむ』開設特別支援プロジェクトは、「子ども健康フォーラム」が取り組む子どもの療養環境改善活動の一環として、同 NPO 法人がマニユライフ生命保険株式会社の特別協賛と社会福祉法人中央共同募金会の協力を得て 2008 年より開始した活動です。療養中の子どもたちの心のケアのための中核施設としての“プレイルーム”の意義を啓発し、活用の充実と質的向上を促進するモデル・プレイルームの設置と運営を支援しています。第四期となる今回は、全国で七番目の設置となる滋賀県立小児保健医療センターを含む、2 つの施設が支援先に選定されました。

滋賀県立小児保健医療センターに新設されたプレイルームは、滋賀のシンボルでもある琵琶湖と自然、当院の外観をモチーフにし、「森の中の湖とお城」をテーマにデザインされています。主に小児整形外科、小児神経内科の子どもたちが多く入院しており、車椅子やストレッチャーを使用している行動制限のある子どもたちが、のびのびと遊べるスペースを確保しました。また重症心身障がいの子どもの、視覚や聴覚など感覚を刺激する玩具を充実させ、入院する全ての子どもたちが楽しい療養生活を送れるような空間作りを目指しました。※詳細は次項以降をご参照

療養中の子どもたちをとりまく環境は、治療のストレス軽減のため、医療環境から離れた家庭を思い起こさせるようなリラックスできる空間作りや、他児との関わり合いの中で社会性を育む機会の提供など“療養環境の充実”が不可欠といわれています。

滋賀県立小児保健医療センターの『マニユライフわくわくるーむ』は、家族と離れ入院する子どもたちや長期入院で社会性を培う機会が少ない子ども達に、「遊びやくつろぎの場」として活用されることが期待されます。



【テープカット後の内覧会の様子】

<本件に関するお問合せ先>

特定非営利活動法人「子ども健康フォーラム」 担当：篠原
TEL:0561-36-6643 携帯：090-6570-2709

マニユライフ生命保険株式会社 広報担当：三好 TEL：042-442-7180
滋賀県立小児保健医療センター 担当：富田・山下 TEL：077-582-6201

<贈呈式、施設の画像等についてのお問合せ先>

連絡事務局（㈱プラチナム内） 担当：小澤、早川
TEL：03-5572-6072 / 携帯：080-5047-2154（小澤） / MAIL：n-ozawa@vectorinc.co.jp

■滋賀県立小児保健医療センター 『マニユライフわくわくる一む』 概要

<設置場所>

滋賀県立小児保健医療センター学童病棟 (住所：〒524-0022 滋賀県守山市守山5丁目7-30)

<滋賀県立小児保健医療センター 『マニユライフわくわくる一む』 の特徴>

今まで当プロジェクトが全国に開設してきました「わくわくる一む」は、プレイルーム単独での整備が主体でしたが、滋賀県立小児保健医療センター学童病棟は、車椅子やストレッチャー、装具を装着した行動制限のある患児が大変多く、従来のプレイルームだけの空間では手狭で移動しにくい、食堂とプレイルームを一体でデザインし、移動しやすく遊びやすい「わくわくる一む」にしました。

「わくわくる一む」のどこに居ても目に入る中央にある柱には、今回のテーマである「森の中の湖」のイメージを象徴的に表現したアートを施し、入院している子どもだけでなく、付き添う大人たちが見ても、心が明るくなるような癒しの効果を図り、湖（琵琶湖）の周りでいきいきと遊ぶ小動物や小鳥、のびやかな自然を表現しました。そして、その柱の周りに、食堂コーナー、図書コーナー、マットコーナー、くつろぎコーナー、製作コーナーを配置しました。

マットコーナーでは、今まで机の上でしか遊べなかったストレッチャーや車いすの子どもたちが、マットに降りて遊ぶことが可能となりました。マットスペース、フロアスペースのどちらからも玩具の取り出しができる棚は、当院の外観と同じ緑色のお城をイメージしたコーナー家具を配置し、くつろぎコーナーには壁掛けのTVとソファを置き、ゆったり出来るスペースにしました。図書コーナーでは、子どもたちの大好きな、全巻揃ったコミックもたくさん用意しました。以前はスチール製が多く、あたたかみがなかった家具も温かみのある木目の収納棚に統一し、アルミの窓枠は木柵を設置しました。

さらに、病院の協力でプレイルームゾーンの壁は、明るい木目調に変え、机や椅子も木目調に統一しました。椅子の座面は琵琶湖の水を連想する明るい水色にし、カーテンは森に集まってくる動物や虫をイメージしたプリント模様のトップシェードを施し、部屋一体をテーマに沿って徹底的にインテリアコーディネートをしています。

玩具は、学童期の子ども達が興味を持って遊べる様々な種類のボードゲームやカードゲーム、パズルなどをたくさん用意しました。また、車椅子でも遊びやすい立脚式のターゲットゲームや、机で絵を書きにくい子のためのイーゼル、病室のベッドやストレッチャーで寝ている姿勢でも遊びやすいマグネットゲームなど玩具選びも工夫しました。重症心身障がいの子どものためには、音や光で刺激する玩具を選びました。

「わくわくる一む」で遊べない子どもたちには、キーボードやおもちゃを病室のベッドサイドに持っていくことのできるワゴンを製作し、病室から出ることが出来ない子どもたちへの保育も充実できるようにしました。尚、当院の「わくわくる一む」は常に開放しているため、ハサミなどの危険な物や教材、玩具の管理が出来るよう、製作コーナーには、カギ付きの棚をオーダーし、子どもたちの安全と玩具の管理にも注意を払いました。



【持ち運び用のワゴンもできました】



【オープンを記念しテープカットを実施】左からマニユライフ生命保険 関西リージョナルオフィス 金野陽一/NPO 法人「子ども健康フォーラム」理事 渡邊芳夫/滋賀県立小児保健医療センター 病院長 藤井達哉/同センター 看護部長 川端悦子/



【テープカット後の内覧会では、実際に入院している患児とその親御さんがプレイルームを体験】

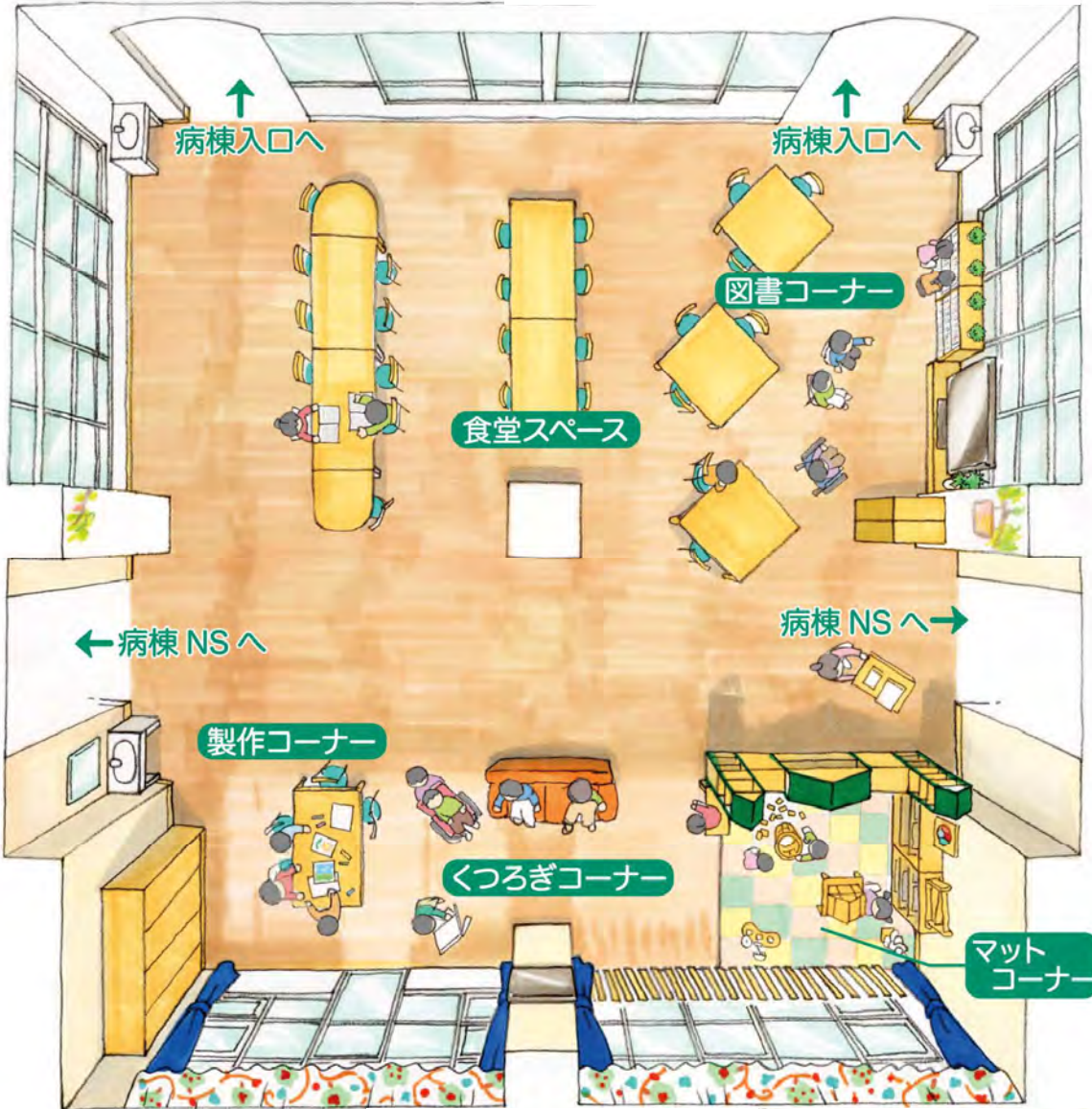
滋賀県立小児保健医療センター 『マニユライフわくわくるーむ』 俯瞰図



【わくわくるーむ 入りロサイン】



【森の中のお城をイメージ】



【全体平面イメージ】



【製作コーナー イメージ】



【マットコーナー イメージ】



【製作コーナー】



【マットコーナーとくつろぎコーナー】



【ターゲットゲーム】



【森の中の湖を表現した中央の柱】



【城をイメージしたコーナー家具】



【お絵かきイーゼル】



【ドールハウス】



【中央の柱に描かれた自然のイラストが癒してくれます】



【音や光、触感で、五感を刺激する玩具】



【オーダーメイドのワゴン】



<ご参考資料>

『マニユライフわくわくる一む』プロジェクト』とは

カナダをはじめとする欧米の小児医療先進国に比べても遜色ない施設、運営方式を取り入れた、国内で最も先進的な小児専門病院のひとつとして知られている愛知県立あいち小児保健医療総合センター（愛知県大府市）にて現在運用中のプレイルーム「わくわくる一む」をモデルとして、新規に導入を希望する全国の小児医療施設に、マニユライフ生命からの寄付金をもとに、理想的なプレイルーム『マニユライフわくわくる一む』設置・運営を支援するものです。



あいち小児保健医療総合センター
「わくわくる一む」

滋賀県立小児保健医療センターについて

国内 19 番目の小児総合医療施設として、1988 年に開設されました。重症な心身障がい児、小児慢性・難治性疾患に対する高度・特殊・先進的な医療を実施するとともに、子どもの権利を大切に考え、ご家族が安心・信頼できる支援を行っています。2005 年には、障がいをもつ就学までの子どもを対象とした児童福祉法に基づく通園施設を統合し、総合療育事業を実施しています。また、地域との連携を元に、医療・保健・療育・福祉を一体的に運営し、県の中核機関として、県民のニーズに応じた包括医療を目指しています。

NPO「子ども健康フォーラム」について

「子ども健康フォーラム」は、未来のある子ども達に、その胸に夢と希望がもてるような環境を整えることが必要・不可欠であるという考えを持っています。日本有数の先進的小児専門病院の「あいち小児保健医療総合センター」（愛知県大府市）をはじめとする小児医療諸施設の療養環境改善支援、子どもの健康に関する施設でのイベント開催支援等を行っています。病児やその家族が癒され、安心して治療を受けられる手助けとなる病院の環境づくりは、高い社会的評価を受けているところです。

※ホームページアドレス <http://www.npo-cln.org/>

社会福祉法人中央共同募金会について

社会福祉法人中央共同募金会は、全国 47 都道府県共同募金会の連合体で、赤い羽根をシンボルとする共同募金運動の全国的な企画、啓発宣伝、調査研究、都道府県共同募金会の支援等を行っています。

また、寄付金の受入れおよび調整や、民間助成資金・公益信託などの取扱いを通して、民間福祉事業の推進に大きな役割を果たしています。NHK との共催による「NHK 歳末たすけあい」、ボランティア活動の推進なども行っています。

マニユライフについて

マニユライフ生命保険株式会社（「マニユライフ生命」）は、マニユライフ・ファイナンシャルのグループ企業です。

マニユライフ・ファイナンシャルは、カナダを本拠とし、世界 22 カ国・地域で事業を展開している金融サービスのリーディング・グループです。マニユライフは 120 年以上にわたり、信頼に支えられ、その信頼に真摯に応える企業として、また力強さに満ち、明日を切り拓く企業として、人生で最も重要な資金面の決断を行う際の解決策を、世界各地のお客さまにお届けすることを目指してまいりました。同社職員、エージェントおよび販売パートナーの国際的なネットワークを通じて、世界各地の数百万のお客さまに経済的保障や資産運用・形成のための商品・サービスをご提供しています。また、世界各地の機関投資家のお客さまには、資産運用サービスのみならず、生命保険および損害・傷害保険の再々保険に特化した再保険の解決策もご提供しています。マニユライフ・ファイナンシャルとその子会社の管理運用資産は、2011 年 3 月 31 日現在 4,780 億カナダドル（4,920 億米ドル）となっています。カナダおよびアジア地域ではマニユライフ・ファイナンシャルとして、米国においては主にジョン・ハンコックとして事業を展開しています。

マニユライフ・ファイナンシャル社一は、トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびフィリピン証券取引所においては「MFC」の銘柄コードで、また、香港証券取引所では「945」で取引されています。マニユライフ・ファイナンシャルについての詳細は同社ホームページ（www.manulife.com）をご覧ください。マニユライフ生命のホームページは次の通りです。（www.manulife.co.jp）